

## 執筆者紹介

(50音順)

### 大森正仁 (おおもり まさひと) 編者

慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻博士課程単位取得退学。博士 (法学)

現在：慶應義塾大学名誉教授

主著：『国際責任の履行における賠償の研究』慶應義塾大学出版会，2018年／「常設国際司法裁判所及び国際司法裁判所の判例における金銭賠償の一考察」岩沢雄司他編『国際関係と法の支配 (小和田恒国際司法裁判所裁判官退任記念)』信山社，2021年／「国際責任法の発展に関する一考察—2000年～2018年」芹田健太郎他編『実証の国際法学の継承 (安藤仁介先生追悼)』信山社，2019年

執筆担当：1-4章 intro, 2章③, 3章①-③, 4章②, 5章①, 11章③

### 小山佳枝 (おやま かえ)

慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程単位取得退学

現在：中京大学総合政策学部教授

主著：『海の国際秩序と海洋政策』(共著) 東信堂，2006年／「違法漁業防止寄港国措置協定と国内措置—IUU 漁業問題をめぐる法的対応」『環境と公害』47巻3号，2018年／「水中文化遺産保護条約の意義と課題」『環境と公害』45巻3号，2016年

執筆担当：序章①, 1章⑤⑥, 2章④, 4章③, 5章⑮, 6章①②⑤⑥⑧, 7章④, 8章④, 9章④, 10章①, 11章④

### 佐々木浩子 (ささき ひろこ)

慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程単位取得退学

現在：国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校水産流通経営学科講師

主著：「「漁業主体」台湾の国際的な枠組みへの参加—かつお・まぐろ類地域漁業管理機関を素材として」『島嶼研究ジャーナル』12巻1号，2022年／「国家管轄権外区域の海洋生物多様性 (BBNJ) のための枠組みに関する一考察—国連海洋法条約の下の新たな条約 (BBNJ 新協定) と生物多様性条約の交錯」『法學研究』94巻1号，2021年／「太平洋島嶼国における海洋の管理に関する一考察—「水域に基づく管理 (zone based management)」とは何か」『島嶼研究ジャーナル』10巻1号，2020年

執筆担当：序章⑤, 2章①②, 4章⑤, 5章③⑤⑥⑭, 6章③④⑦⑨, 7章①②, 8章⑥, 9章①②⑩⑫, 10章⑤⑩, Column1, 2, 3

### 武井良修 (たけい よしのぶ)

オランダ・ユトレヒト大学法学博士号取得

現在：慶應義塾大学法学部准教授

主著：*Filling Regulatory Gaps in High Seas Fisheries : Discrete High Seas Fish Stocks, Deep-sea Fisheries and Vulnerable Marine Ecosystems*, Martinus Nijhoff Publishers, 2013/“Demystifying Ocean Governance”, in Seline Trevisanut, Nikolaos Giannopoulos and Rozemarijn Roland Holst (eds.), *Regime Interaction in Ocean Governance : Problems, Theories and Methods*, Brill, 2020/“Are the Polar Regions Converging? A Study of the Evolution of the International Regime Governing the Arctic in Comparison with the Antarctic Treaty System”, in Mariano Aznar and Mary Footer (eds.), *Select Proceedings of the European Society of Inter-*

*national Law*, vol. 4, Hart Publishing, 2015

執筆担当：序章④、1章①-③、2章⑤、4章①④、5章④⑦-⑩、8章⑧、9章⑥⑪、11章②、Column4

### 藤原 泉（ふじわら いずみ）

應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程単位取得退学。タフツ大学フレッチャー法律外交大学院修士課程修了、修士（国際関係論）

現在：在オランダ日本大使館専門調査員

主著：「一方的制裁の合法性とその法的課題—EU及び米国における対イラン制裁を中心に」『法律學研究』56号、2016年／「国際法における域外管轄権と米国の二次制裁」『法學政治學論究』115号、2017年／「国際法における経済制裁解除の課題と展望—最近の事例と米国制裁法の構造に照らして」『法學政治學論究』127号、2020年

執筆担当：序章③⑥、5章①②⑫⑬、7章⑥、8章②、9章③

### 藥袋佳祐（みない けいすけ）

慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程単位取得退学

現在：名城大学法学部准教授

主著：“The Belgian Martens Clause: Qualitative, Quantitative, and Statistical Reanalyses of the Records of the 1899 Hague Peace Conference”, *UNIVERSITY OF DETROIT MERCY LAW REVIEW*, Vol. 100, 2023／“Re-Excavation of Fault in Article 3 of the 1907 Hague Convention IV on War on Land”, 『法學研究』94巻1号、2021年／“Encouragement of Learning through War Video Games as an Intelligible Textbook on International Humanitarian Law”, *CORNELL INTERNATIONAL LAW JOURNAL*, Vol. 52, No. 4, 2020

執筆担当：序章②、2章⑥、4章⑥、7章⑤、8章⑨⑩⑫、9章⑤⑧⑨、10章②-④⑦⑫、11章①、Column5

### 尹 仁河（ゆん・いんは）

慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程単位取得退学

現在：慶應義塾大学法学部専任講師

主著：『よくわかる国際法 第2版』（共著）ミネルヴァ書房、2014年／『プレステップ法学 第5版』（共著）弘文堂、2023年／「障害者権利条約に基づく被害者救済の意義」『法學研究』94巻1号、2021年

執筆担当：1章④⑦、7章③、8章①③⑤⑦⑪、9章⑦、10章⑥⑧⑨⑪⑫